

わけんあいご 「和顔愛語」

和田 一丸

通勤時。駅で列車が止まると、サラリーマンと思われる人たちが雪崩のごとくホームに降り立ち、男性も女性も、老いも若きも、眉間にしわを寄せたまま一点を見つめ、言葉を交わすことなく改札口へと矢のように急ぎます。田舎暮らしの私にとっては、たまに見るこの光景が味気なくてつまらなく、心の底まで冷え込んでしまいます。

「わけんあいご」ということばが『大無量寿経』にあります。やわらいだ笑顔をもって穏やかな温かい言葉を交わすこと、と教えてくれています。

我が家に、生まれて半年の女の子の孫がいます。今では、嬉しい時は全身を使って喜びを表し、空腹や眠い時にはむずがったりと、かなり表情が豊かになってきました。名前を呼ぶと、満面の笑みを浮かべて応えてくれます。どんなに疲れていても、この純真無垢な笑顔を見ているだけで心が温まり、疲れも何も吹っ飛んでしまいます。

ある本でこんな一節を目にしました。「赤ちゃんはみんなの世話になるだけで、自分では何もできない。でも、笑顔の布施はできるのだからと、仏様は赤ちゃんに笑顔を授けられた。赤ちゃんの笑顔は、仏様からの授かりものなのです…と」。

確かに、笑顔の布施ややさしい言葉の布施は、老若男女の誰にでもできることです。特別な才能も、金銭も、体力だって必要ありません。日々の生活がより味わいがあり、心豊かになるよう、「わけんあいご」の布施を心掛けてみようではありませんか。